

福岡県米麦大豆生産改善速報 第4号

令和元年9月5日
福岡県
福岡県米麦品質改善協会

水稻の生育概況と成熟期予測

1. 気象経過 [太宰府アメダス]

	7月25日～9月3日 (40日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	27.6	32.5	24.0	199	635
前年差(比)	-1.7	-2.1	-1.2	57%	375%
平年差(比)	+0.5	+0.6	+0.5	87%	242%

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 農林業総合試験場における生育概況

7月25日～9月3日の平均気温は平年より0.5℃高く、日照時間は13%少なく、降水量は142%多く、多雨・寡照で経過した。出穂期は「夢つくし」で平年より1日、「ヒノヒカリ」で平年並～3日、「実りつくし」で4日遅かった。「元気つくし」の出穂期は農産部では1日早く、筑後分場で2日遅かった。全穂数は「夢つくし」で10%少なく、「元気つくし」で7～16%少なく、「ヒノヒカリ」で7～18%少なく、「実りつくし」で17%少なかった。今後の気温が平年並で経過すると成熟期は平年と比較して、「夢つくし」で4日、「元気つくし」と「ヒノヒカリ」で1～4日、「実りつくし」で1日遅くなると予想される。

3. 農林業総合試験場における水稻の出穂期、穂数と予想成熟期

調査場所	移植期	品種	年次	穂肥施用時		主稈葉数(L)	全穂数(本/m ²)	出穂期(月日)	予想成熟期(月日)
				カラー スケール	葉緑 素計				
農産部	6/10	夢つくし	本年	3.9	40.8	12.9	339	8.10	9.15
			前年比(差)	+0.1	+3.8	-0.9	89	+5	+9
			平年比(差)	-0.1	+1.1	-0.2	90	+1	+4
	6/20	元気つくし	本年	3.7	35.8	13.2	334	8/18	9.28
			前年比(差)	-0.3	-0.2	-0.4	77	+1	+3
			平年比	-0.2	-2.4	-0.1	93	-1	+1
6/20	ヒノヒカリ	本年	3.3	35.1	13.9	313	8.26	10.08	
		前年比(差)	-0.1	+0.6	-0.3	74	±0	+3	
		平年比(差)	-0.4	-1.5	+0.3	82	±0	+1	
筑後分場	6/20	元気つくし	本年	3.3	32.6	14.0	358	8.20	9.30
			前年比(差)	-0.2	-3.8	+0.4	70	+4	+7
			平年比	-0.3	-4.1	+0.7	84	+2	+4
	6/20	ヒノヒカリ	本年	3.1	30.1	14.0	374	8.28	10.10
			前年比(差)	±0.0	-1.2	-0.4	84	+3	+3
			平年比(差)	-0.2	-3.8	+0.4	93	+3	+4
	6/20	実りつくし	本年	3.1	30.4	14.5	323	9.03	10.16
			前年比(差)	+0.1	-0.7	-0.5	80	+4	+1
			前4年比(差)	+0.1	-0.7	-0.3	83	+4	+1

注) ①平年値は過去10か年の平均値。

②カラースケールは群落葉色値、SPAD値は葉緑素計 (SPAD-502) による上位展開第2葉の測定値。

③熟期は9月4日以降の気温が平年並 (過去10年アメダス平均) で経過した場合の予測値。

④この値は暫定値で、今後変更することがある。

4. 今後の対策（水稻）

（1）病虫害防除

病虫害は発生状況に応じて適切に防除を行う。特にいもち病、トビイロウンカ、斑点米カメムシ類は、ほ場での発生状況の把握に努め、適期に防除する。

（2）水管理

出穂期～開花期は最も水を必要とする時期なので、ほ場が乾燥状態にならないようにする。その後は、間断かん水を行い、徐々にかん水間隔を伸ばす。

台風襲来等で強風が予想される場合は、深水で稲体を保護し、脱水による青枯れや白未熟粒の発生を防止する。

落水時期は収穫前7～10日頃を目安として行い、登熟障害により収量、品質の低下が懸念される早期落水はしない。

（3）適期収穫

収穫時期は出穂後の積算気温を参考に、黄褐色籾比率や籾水分を確認して決定する。特に本年は降雨が多いため、刈り遅れにならないよう留意する。

5. 農林業総合試験場農産部における大豆（フクユタカ）の開花期

7月8日播種の大豆の開花期は、8月20日で平年に比べて1日遅い。

播種期	開花期	前年差	平年比
7月8日	8月20日	+1日	+1日
7月24日	8月31日	+3日	±0日

注）平年値は平成21～30年の10か年平均値。

6. 今後の対策（大豆）

（1）長雨対策

8月下旬の大雨・長雨により大豆の生育に影響が出始めていることから、下記により排水・雑草対策等を行う。

①排水対策

- ・本暗きよの栓を開け、中耕・培土でできた溝と排水口を確実につないで、早めに地表水の排水を行う。
- ・強い雨や浸水・冠水により畦が崩壊し、停滞水の排出が困難な場合は、乗用管理機等の車輪跡がはっきりつく程度になったら畦間を走行するなど、早めに根圏に酸素を供給する方法を講じる。
- ・今後も雨が多いと想定されるため、畝溝の整備を行い、排水対策の徹底を図る。

②雑草対策

- ・大豆の生育量が少ないほ場は、雑草の発生が多くなるので、必要であれば早めに畦間処理除草剤を散布する。

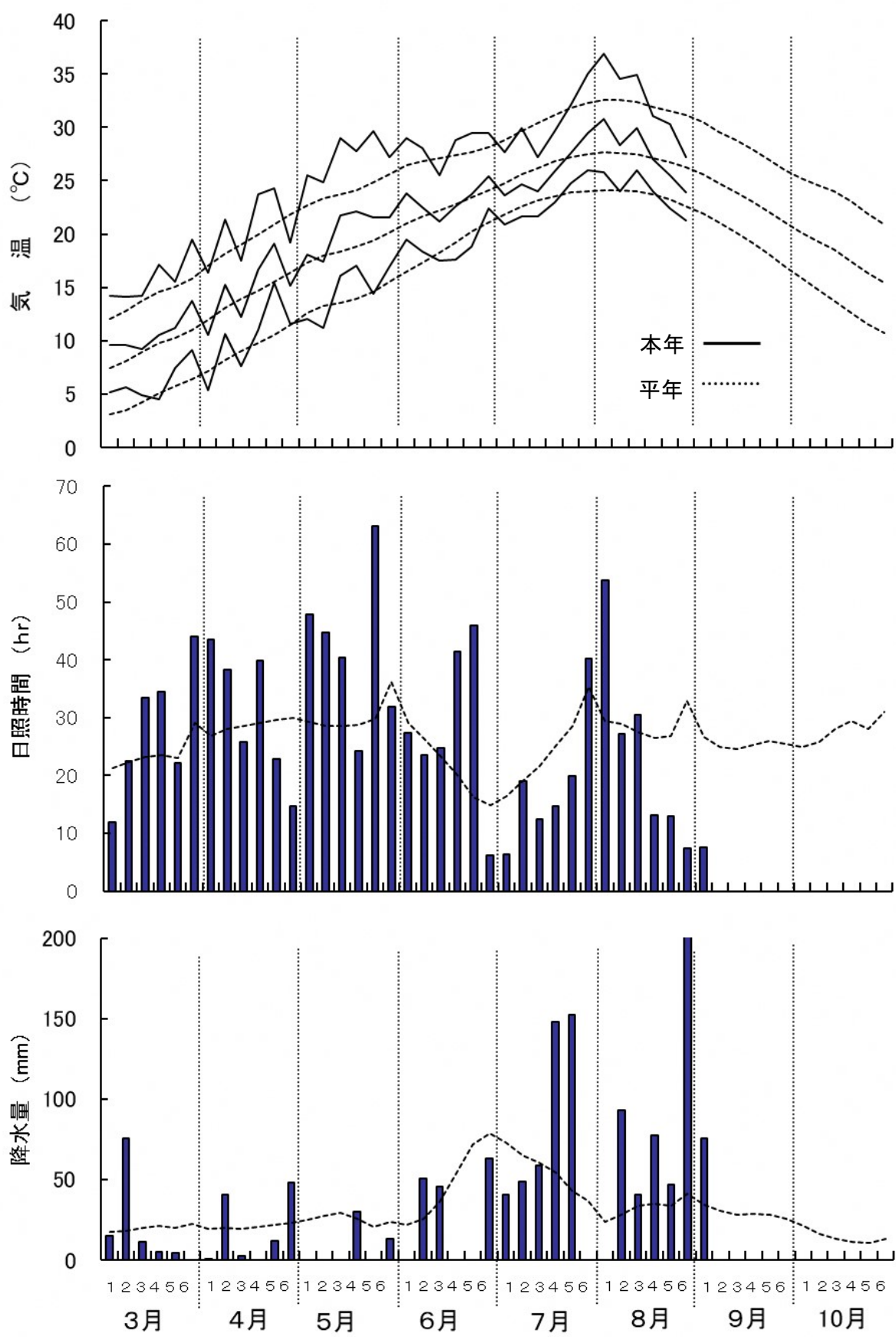
③追肥

- ・長雨により、葉の黄化がみられるほ場では、窒素成分で2kg/10aの速攻性肥料を追肥し、生育を回復させる。

（2）病虫害防除

ハスモンヨトウは、各地に設置されているフェロモントラップの誘殺数とほ場での白変葉の発生状況とを総合的に判断し、適期防除を実施する。

カメムシ類と紫斑病は、開花後30日頃に防除を実施する。



2019(令和元年)夏作期間の気象 (太宰府アメダス)